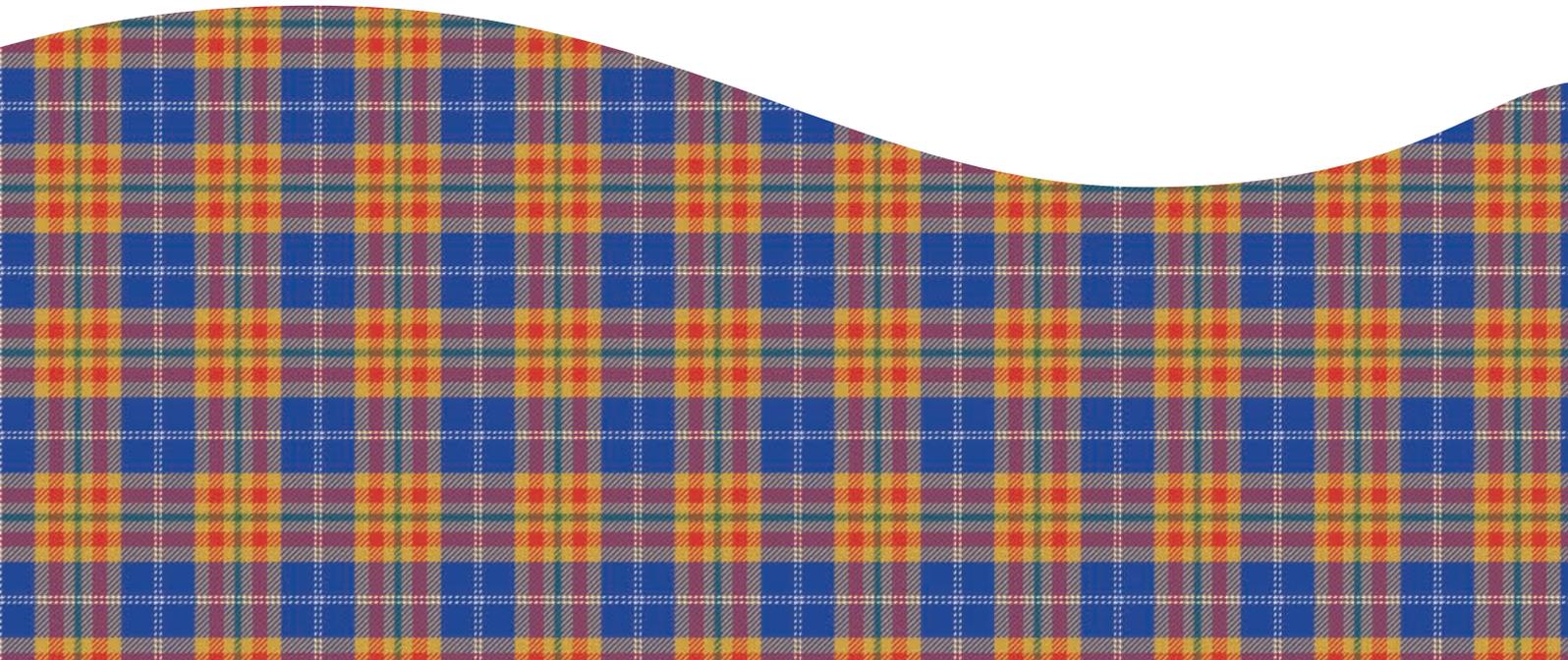
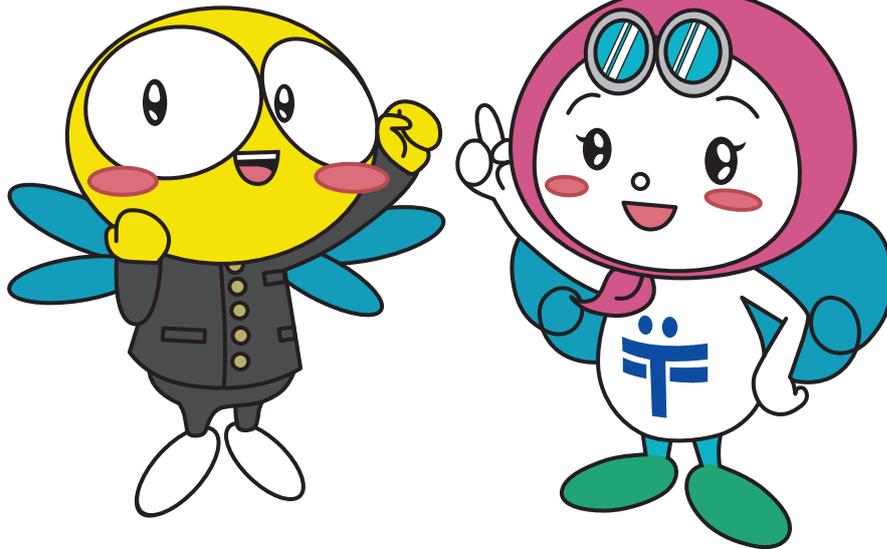
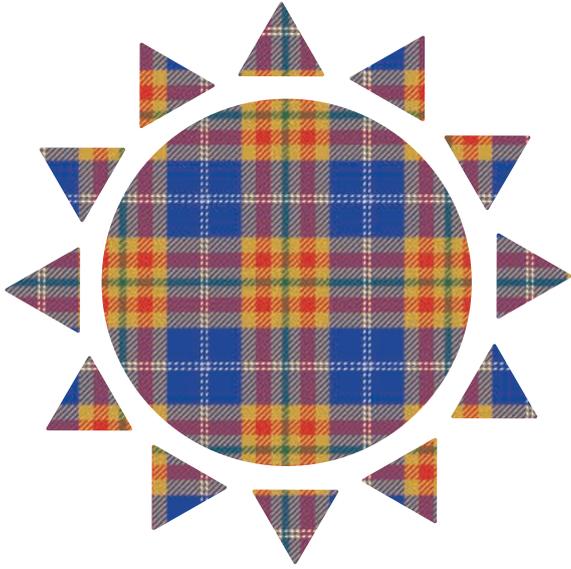




トンボ

CSRレポート 2019

2018.7.1~2019.6.30





シオカラトンボ

写真提供
津黒いきものふれあいの里 ささゆり館

INDEX

- 会社概要 2
- トップメッセージ 5
- 信頼される企業体制 7
- お客様に安心と満足をお届けするために 11
- ハイライト 15
- 環境活動報告
 - 環境方針と環境負荷低減活動 19
 - 環境負荷低減への取り組み 20
 - 真庭トンボの森づくり活動 21
- 社会活動報告
 - 「WE LOVE トンボ」絵画コンクール 22
 - 11月29日 いい服の日 23
 - キラク介護川柳、キラクふれあいフォトコンテスト 24
 - トンボオリジナルキャラクター活動報告 25
 - 工場見学・インターンシップ等による地域貢献 26
 - 日本唯一のユニフォーム研究開発センター・復興支援 27
 - 各事業所での活動 28
 - VICTORYスポーツ教室 29
 - スポーツ大会等の協賛支援 30
 - 公益財団法人 八正会 31
- 健全な企業風土づくり 32
- ブランディング活動報告 37
- 沿革 38

会社概要

スクール事業 幼稚園から短大・専門学校までの学校制服



幼稚園向け

MyPalette



小学校向け

TOMBOW Primary
TOMBOW JOY



中学校向け

トンボ学生服
トンボ女子通学服



高校向け

TOMBOW VARSITYMATE
COMME ÇA
School Label

EAST BOY
OLIVE des OLIVE
School

スポーツ事業 幼稚園から高校までのスポーツウェア



幼稚園向け

MyPalette



小学校向け

TOMBOW



中学校向け

VICTORY



高校向け

YONEX

ヘルスケア事業 介護スタッフユニフォーム、被介護者向けウェア、医療白衣、検診受診者用ウェアなど



介護施設向け

YONEX × KIRAKU medicare



介護施設向け

KIRAKU CARE & COMFORT WEAR



病院向け

TOMBOW MEDICAL WEAR

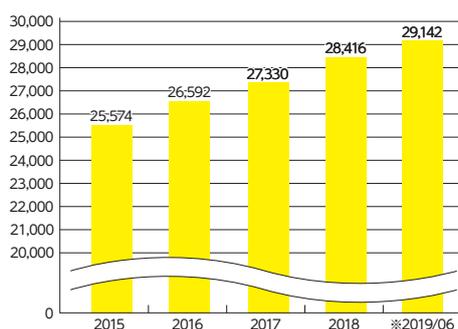
新規事業 ペット用品



ペット向け

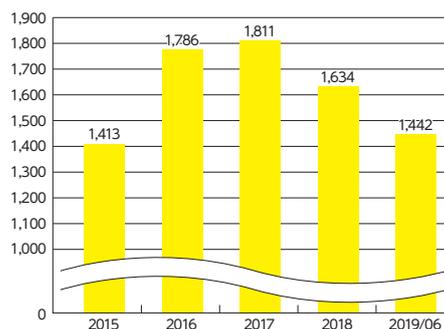
With

【連結売上高】(単位：百万円)

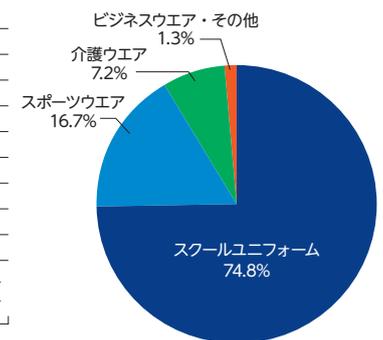


※2019/06: 子会社を含めたグループ売上としては、約38,300百万円

【連結経常利益】(単位：百万円)



【売上高構成比率】



会社概要

社名 株式会社トンボ

URL <https://www.tombow.gr.jp>

会社設立 1924(大正13)年5月10日(創業:1876(明治9)年)

資本金 2億6187万円

代表者 取締役社長 近藤 知之

従業員数 1,914人(2019年6月末現在のグループ合計数)

本店所在地 玉野本社工場
〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地
TEL.(0863)51-1515 FAX.(0863)51-2526

事業所所在地 岡山本社
〒700-0985 岡山市北区厚生町二丁目2番9号
TEL.(086)232-0311 FAX.(086)225-4094

東京本社
〒111-0052 東京都台東区柳橋二丁目22番8号
TEL.(03)5822-1129 FAX.(03)5822-1145

大阪支店
〒540-0025 大阪市中央区徳井町二丁目1番1号
TEL.(06)6942-5551 FAX.(06)6942-5549

名古屋支店
〒451-0053 愛知県名古屋市中区枇杷島一丁目21番30号
TEL.(052)562-1741 FAX.(052)562-4135

岡山支店
〒700-0977 岡山市北区問屋町22番地101
TEL.(086)241-7830 FAX.(086)241-7856

松江営業所
〒690-0047 島根県松江市嫁島町13番地5号
TEL.(0852)23-3211 FAX.(0852)27-5387

広島支店
〒733-0842 広島市西区井口五丁目3-4
TEL.(082)270-5121 FAX.(082)270-5123

愛媛営業所
〒790-0043 愛媛県松山市保免西二丁目2番23号
TEL.(089)994-8889 FAX.(089)994-8899

福岡支店
〒811-2207 福岡県糟屋郡志免町南里六丁目8番1号
TEL.(092)937-3730 FAX.(092)937-3750

北九州営業所
〒802-0022 福岡県北九州市小倉北区上富野一丁目4-1-1 オフィスパレア上富野I A1号室
TEL.(093)512-0720 FAX.(093)512-0740

ユニフォーム研究開発センター
〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地
TEL.(0863)51-1517 FAX.(0863)53-9009

岡山工場
〒700-0034 岡山市北区高柳東町8番1号
TEL.(086)252-1131 FAX.(086)253-4432

美咲工場
〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原954番地
TEL.(0868)62-0122 FAX.(0868)62-0797

玉野物流センター
〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地
TEL.(0863)51-1522 FAX.(0863)51-1243

紅陽台物流センター
〒706-0134 岡山県玉野市東高崎25番地8
TEL.(0863)71-4466 FAX.(0863)71-4471

【事業内容】

スクールユニフォーム、スポーツウエア
介護・メディカルウエアなどの企画、製造、販売

関連会社

北海道トンボ株式会社
秋田トンボ株式会社
宮城トンボ株式会社
福島トンボ株式会社
茨城トンボ株式会社
関東トンボ株式会社
新潟トンボ株式会社
長野トンボ株式会社
徳島トンボ株式会社
南九州トンボ株式会社
株式会社大万スクール
株式会社モリ商会
株式会社フォワード
株式会社トム
株式会社マリカ
株式会社マイク
株式会社トンボシステム
株式会社トンボ保険サービス
瀧本株式会社

関連会社(生産関係)

トンボソーイング株式会社
サントンボ服装株式会社
株式会社ハートヒルズ
株式会社トンボ倉吉工房

(株)トンボ：16 拠点
本社・支店：10 拠点
研究開発：1 拠点
工場：3 拠点
物流：2 拠点
関連会社：23 社

【トンボグループ】



営業拠点



岡山本社



東京本社

岡山本社と東京本社の両本社体制をとっており、全国の支店と合わせて10ヶ所の営業拠点を設けています。



大阪支店



名古屋支店



岡山支店



広島支店



福岡支店



松江営業所



愛媛営業所



北九州営業所

生産・物流・研究開発拠点

岡山県内に工場を3拠点と物流センターを2拠点、そしてユニフォーム研究開発センターを設けています。



玉野本社工場・物流センター



ユニフォーム研究開発センター



紅陽台物流センター



岡山工場



美咲工場

トップメッセージ



Top Message

代表取締役社長

近藤知之

トンボが社会貢献の一環として支援している奨学金、育英基金は次の3つがございます。

1. トンボ育英事業団体

「公益財団法人八正会」奨学金

1956年(昭和31年)初代社長三宅保正が私財を投じ設立。岡山県の高校生を対象とした奨学金制度です。宿泊研修を含む年4回の研修会を行なうことで会員同士が親睦を深め合い、人間性を向上させる事を願って運営されています。八正会とは仏教の「八正道」の教えに由来し、八つの正しい道(正見・正志・正語・正業・正命・正精神・正念・正定)を修業していくことを目的としてネーミングされたとされていますが、創業の地である八浜の八と保正の正を組み合わせた名称として親しまれています。八正会設立の精神は現在も受け継がれ年2回発行される機関紙「やまびこ」への投稿が義務づけられています。現在も35名が在会し、延べで800名近くの会員とともに活動が受け継がれています。



八正会 入会式

2. 東日本大震災復興支援

「トンボスマイルキャンペーン」義捐金

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災し、被害の大きかった岩手、宮城、福島各県で保護者を亡くされた児童生徒の皆さんの就学支援のため2012年より開始致しました。

義捐金はこの企画にご賛同頂いた消費者の皆様の売上の一部から捻出し、岩手県は「いわての学び希望基金」、宮城県は「東日本大震災みやぎこども育英基金」、福島県は「東日本大震災ふくしまこども寄附金」へ、各々毎年300万円ずつ寄付しています。震災直後に小学校に入学した生徒が高校卒業するまで12年間の予定(今期で8年目)で継続しています。長きに渡り支援をしている事に対して自治体より感謝と高い企業評価を受けています。



いわての学び希望基金

3.日本スコットランド交流協会 トンボ学生服奨学金

NPO法人日本スコットランド交流協会が主催する「スコットランドの大学の大学院で修士号取得」を目指す学生と「英国国立スターリング大学高校生英語研修プログラム」へ参加希望の高校生に対し奨学金支援を今期より行っています。

トンボはタータンチェックを通じて英国スコットランド「ロキャロン社」と深いつながりがあります。現在「ロキャロン社」のデザインしたタータンチェックが、日本の中学校・高校120校の女子生徒のスカート柄で採用され、約30,000人の生徒達が着用して頂いている事もあり、何とかご恩返しができないかと考えていました。そんな時NPO法人日本スコットランド交流協会の留学奨学金制度の事を知り、支援を申し出たところ「トンボ学生服奨学金」として快く承諾して頂きました。今後より一層拡大支援をまいります。将来社会に役立つ人材教育の一助になれば幸いです。



日本スコットランド交流協会
中央：フランク・ボイランド会長
右側：関妙子名誉会長

英国国立
スターリング大学

4.ユニフォーム業界、国内NO.1 アパレルメーカーとしての使命

株式会社トンボは同業の会社の株式を取得しグループ子会社と致しました。これに伴いトンボグループは27社でグループ売上約383億円を計上することになり、ユニフォーム業界において国内NO.1のアパレルメーカーとなりました。

学生服業界は少子化の影響を受けマーケットが年々縮小しています。既に100万人を切った年間の出生

人口は今後10年で更に出生率が下がり、ターゲットである中高校生の新入学者が既に15%ダウンとの予測が出ています。売上確保は益々厳しくなっています。今後は競合他社との競争が更に激化し、業界の寡占化が更に進むと予測されます。

人口の減少は、マーケット縮小による売上ダウンだけでなく、生産の現場でのワーカーの人手不足も深刻な状況となっています。我々にとって更に厳しい環境となったのが2019年4月に施行された「働き方改革関連法」と「改正出入国管理法」です。

「働き方改革関連法」につきましては、我々の業界は、入学式というハードルがあるためどうしても売上のシーズンが偏ります。特に3月は年間の売上の約1/3を占め、4月の入学式を終わった後の5月の夏物納品、3月～5月の3カ月の間の残業時間は100時間を超える社員も従来はたくさんいました。この改正法は、中小企業は2020年4月からの施行となりますが1ヵ月100時間の以上の残業は禁止、複数月の平均は80時間を超えてはならないことになり、繁忙期の3～5月は240時間までの残業が上限となりました。このため社員の残業が規制され、アルバイトや派遣社員の人員の確保がより必要となり、人件費のアップや生産性の低下が考えられ利益確保が厳しくなります。

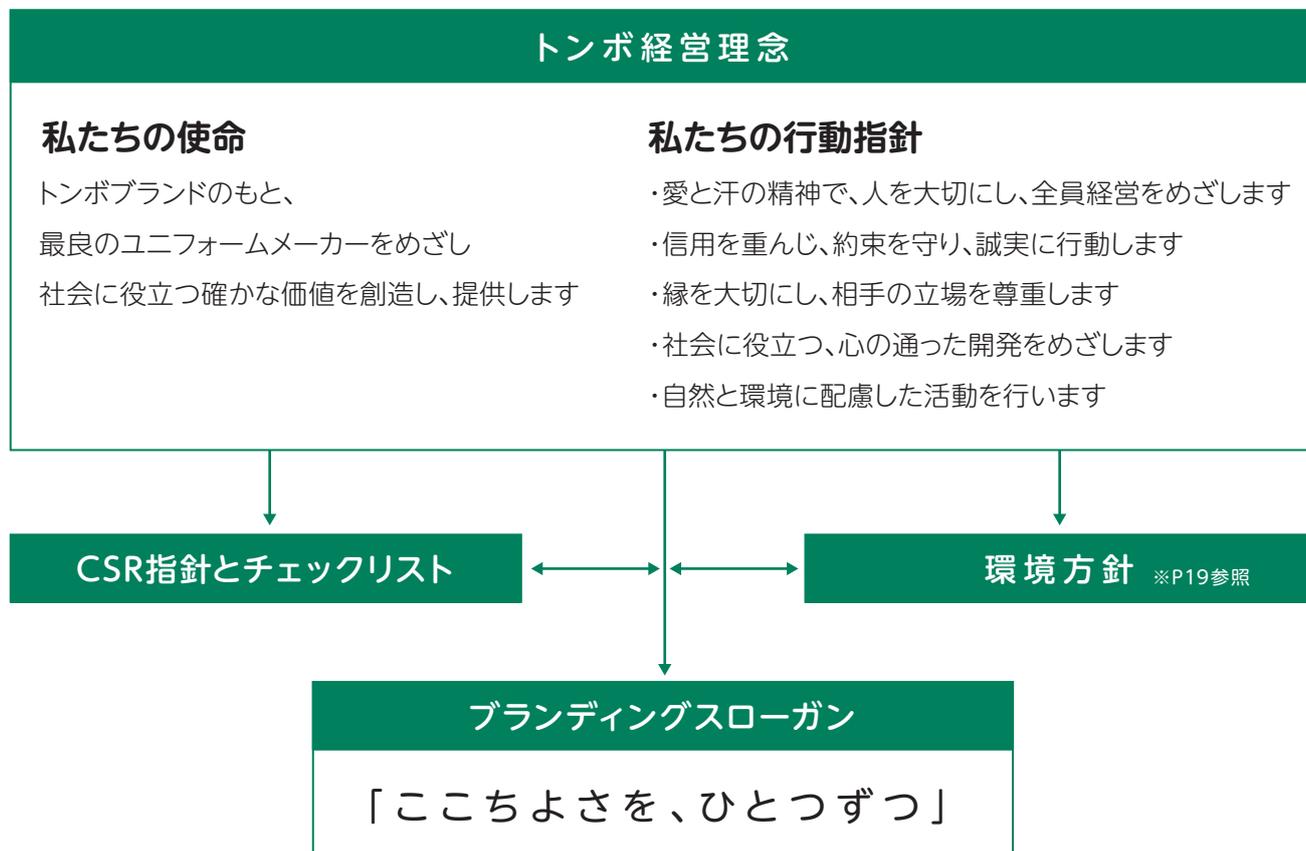
技能実習制度は、海外からの実習生に関するもので、技能を実習するため最長5年の現場実習が認められています。今回の「改正出入国管理法」では5年の延長が認められる特定技能1号、更に在留期限の延長が認められ家族の帯同も許可される特定技能2号の制度が創設されましたが、縫製での特定技能は対象外となりました。今後は、海外の実習生の労働力を確保していくことも難しいでしょう。特に我々の協力工場はその影響を受け、廃業も考えられ、売上拡大より更に難しくなるのが国内の生産スペースの確保ということになります。今回の同業の会社の子会社化により、特に取り組んでいかなければならないのは、同じプラットホームで生産のスペースを共有し、効率的な生産を考えていく事です。そして海外生産のキャパシティの共同活用も考えていかなければならないと考えます。

トンボグループは国内外での製品作りの背景も含めて「高品質、高機能の確立された美しい日本の制服姿」を次世代に引き継いでいくという使命感を持って今後の会社経営にあたってまいります。皆様の一層のご支援とご指導を頂きますようお願い申し上げます。

信頼される企業体制

トンボのCSR^{※1}経営

トンボの経営理念に基づき、CSR指針・環境方針・ブランディングスローガンを策定しています。それぞれが相互に関連し合い、トンボ社員の行動規範となっています。



CSR指針とチェックリスト

社会が必要とする企業として、「私たちのCSR指針」を掲げ、社員一人ひとりが、「私たちのCSRチェックリスト」で、その行動をしっかりと確認しながら企業活動に取り組んでいます。

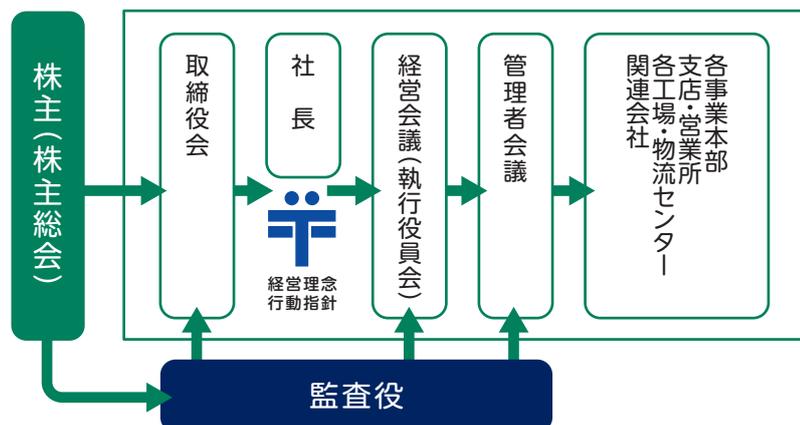
私たちのCSR指針 ～社会が必要とする企業として～	私たちのCSRチェックリスト ～日々の自分の行動を振り返ってみましょう～
<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 人を大切にする経営を進めます<input type="checkbox"/> 適正品質と品質保証に努めます<input type="checkbox"/> 環境保全活動を推進します<input type="checkbox"/> 社会貢献活動を推進します<input type="checkbox"/> 法令、倫理規範を遵守します<input type="checkbox"/> 適切な情報開示を行います<input type="checkbox"/> トンボブランドに恥じない行動をします	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> その行動、その商品はトンボブランドを傷つけませんか？<input type="checkbox"/> 人の気持ちや意見を大切にしていますか？<input type="checkbox"/> 自信を持ってその商品を世に出せますか？<input type="checkbox"/> 法律やルールに触れませんか？<input type="checkbox"/> 家族や大切な人を裏切ることになりませんか？<input type="checkbox"/> 社会に迷惑をかけませんか？



大賞・文部科学大臣賞 小学2年生の部
長崎県 今里小学校 中尾 明幸さん

コーポレートガバナンス^{※2}

当社は、ステークホルダー^{※3}との良好な関係のもと、客観性・透明性の高いガバナンス体制の構築と、持続的な企業価値の向上を目指し、「取締役会」および「経営会議（執行役員会）」による迅速かつ正確な意思決定を行い、各事業部門にて業務を執行しています。



取締役会

株主総会にて選任された「取締役」による経営の最高意思決定機関。法令および定款に定める事項、その他年度予算や決算の承認、中期経営戦略計画の策定など、重要事項を決定、監査役同席のもと、毎月開催。

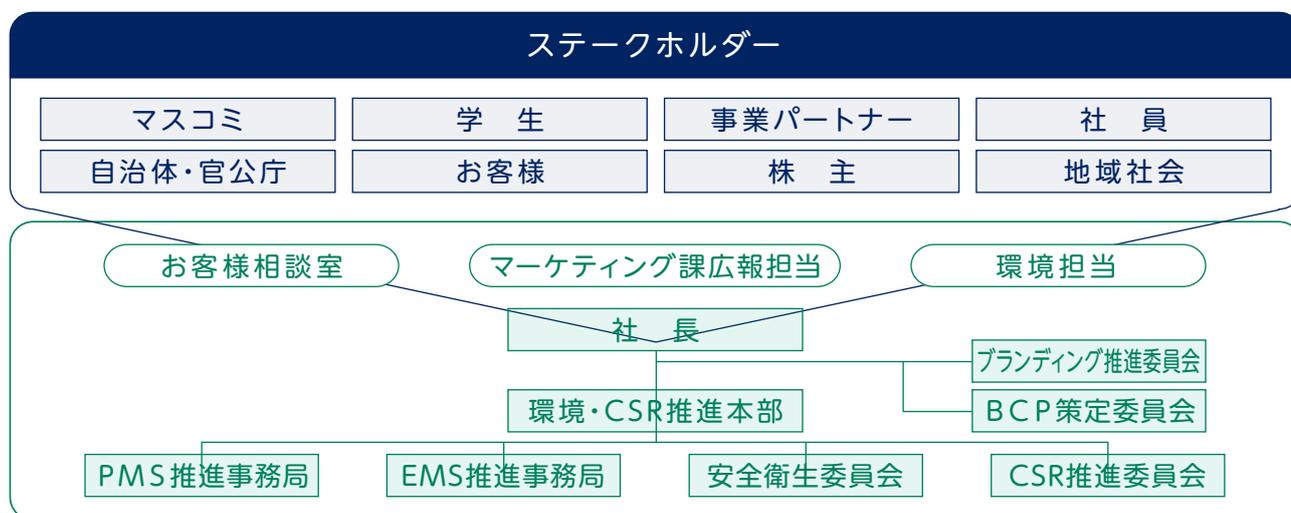
経営会議

取締役・執行役員により、会社の経営に関する基本方針の協議や、会社の業務執行、戦略に関する重要事項を決定。毎月開催。

CSR推進体制

CSRの取り組みを進める社内体制として、社長直轄の「環境・CSR推進本部」を組織するとともに定期的に委員会や事務局会議を開催し、活動を推進しています。

- 社内外のコミュニケーション活動：【お客様相談室】【マーケティング課広報担当】【環境担当】
- お客様にまごころのこもった商品・サービスをお届けする為の社内活動の推進：【ブランディング推進委員会】
- 災害や緊急事態に備える事業継続計画の策定：【BCP策定委員会】
- 「JISQ15001」^{※4}に沿った個人情報保護のマネジメントシステムの構築と維持拡充：【PMS推進事務局】
- 「ISO14001」^{※5}に沿った環境保護活動、国際規格の維持：【EMS推進事務局】
- 安全衛生面の改善活動：【安全衛生委員会】
- CSRレポートの発刊及びCSR活動の推進：【CSR推進委員会】



※1 CSR(Corporate Social Responsibility):企業の社会的責任。社会における企業のあり方、地域社会の中での役割・責任。
 ※2 コーポレートガバナンス:企業統治、内部統制。企業が社会や個人のために、健全で持続的な企業活動を行うための仕組み。
 ※3 ステークホルダー:企業活動に関する利害関係者。
 ※4 JISQ15001:プライバシーマークの認定基準の日本工業規格。「個人情報保護マネジメントシステムの要求事項」
 ※5 ISO14001:ISO(国際標準化機構)が定めた企業活動、製品およびサービスによって生じる環境への負荷低減等、環境経営に関する国際規格。

信頼される企業体制

SDGs [Sustainable Development Goals] (持続可能な開発目標)

SDGsは2015年9月の国連総会で採択された具体的行動指針であり、国際社会共通の目標です。2030年までの長期的な開発の指針として、飢餓や貧困、気候変動の進行、生物多様性の劣化など、さまざまな課題の解決を図るため、17のグローバル目標と169のターゲット(達成基準)が設定されており、より良い未来に向けて全世界が動き出しています。

企業としても企業規模や業種を問わず、自社における優先課題を決定し目標を定めていく必要があります。



専務取締役
環境・CSR推進本部
推進委員長 難波 照明

環境を守り、未来の人たちも豊かな暮らしが出来るように、 世界が抱えている課題を各国が協力し解決していく為の国際的な約束

SDGsがなぜ企業に必要で求められているのか？

企業の考えられるメリットとは

- ① 将来の事業領域の拡大 (ビジネスチャンス)
- ② 企業価値の向上 (経営リスクの管理)
- ③ ステークホルダーとの関係強化
- ④ 社会と市場の安定化
- ⑤ 共通言語の使用と目的の共有

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



今後の取り組みについて

各企業は独自のやり方で環境活動、社会貢献を進めてきましたが、SDGsやESG投資といった新たな世界基準が発表されたことにより、全ての企業が同じ方向に向けた活動が展開できるようになりました。トンボとしても、SDGs実現に向けた取り組みを企業として実践していくことが、これからの時代のCSR(企業の社会的責任)経営と考えます。

しかしながら、SDGs目標は多岐に渡っており、全ての目標に取り組むことは現実的ではありません。

このため当社では、将来に渡り自社のサプライチェーンにどのような影響を及ぼすか、企業価値の向上に向けた取り組むべき目標は何かを十分に把握し、出来ることから優先順位を決めて展開してまいります。

この活動を通じて、社会から必要とされる企業を目指してまいります。引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大賞・文部科学大臣賞 小学3年生の部
栃木県 氏家小学校 田代 永さん

トンボの取り組み

持続可能な開発目標	施策・取り組み	持続可能な開発目標	施策・取り組み	持続可能な開発目標	施策・取り組み
1 貧困をなくそう	・岡山県社会福祉協議会を通じて商品寄贈 ・児童養護施設への支援活動 ・東日本大震災復興支援 トンボスマイルキャンペーン	5 ジェンダー平等を実現しよう	・女性活躍推進活動の取り組み	12 つくる責任 つかう責任	・再生ポリエステル繊維を使用した制服・体育着・介護着 ・残布提供・マイ箸づくり
3 すべての人に健康と福祉を	・福祉施設へのボランティア活動 ・高齢者対象の川柳、写真コンテスト開催 ・献血への参加	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	・カーボンオフセットの取り組み	13 気候変動に具体的な対策を	・エコ製品の販売促進 ・クールビズ推進
4 質の高い教育をみんなに	・奨学金育英事業 ・ジェンダーレス制服への取り組み ・キャリア教育支援 ・インターンシップ、チャレンジワーク受け入れ ・文化支援活動 (IWE LOVEトンボ) 絵画コンクール、11月29日 いい服の日) ・スポーツ支援活動 (スポーツ教育、スポーツ大会) ・VICTORYスポーツ教室 ・就労応援団への参加 ・学校制服文化の維持発展	8 働きがいも経済成長も	・こころの健康相談室 ・労働組合活動 ・作業所への労務提供 ・再雇用制度	14 海の豊かさを守ろう	・水質環境に配慮した染色生地の調達
		10 人や国の不平等をなくそう	・ユニバーサルデザインウエア	15 陸の豊かさを守ろう	・真庭トンボの森づくり活動
				16 平和と公正をすべての人に	・法令遵守 ・客観性、透明性の高いガバナンス体制

コミュニケーション

当社は、さまざまな手法を用いてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、信頼関係をより高めていけるよう取り組んでいます。

人と人の対面による直接的なコミュニケーションを中心に、インターネットによる情報開示も積極的に行っており、ホームページからさまざまな情報を閲覧して頂けるようになっています。

[トンボ学生服](#)

[検索](#)

主なコミュニケーション手法

お客様

- ・お客様相談室
- ・トンボ総合展示会
- ・国際福祉機器展 等
- ・商品カタログ
- ・保護者向け情報誌「制服っていいね」



トンボ総合展示会

学生

- ・会社説明会
- ・インターンシップ受け入れ
- ・リクルート冊子



会社説明会

社員・OB

- ・社内情報共有システム(トンボネット)
- ・社内報
- ・キラク親睦会(会社概況説明会・親睦会)

株主

- ・株主総会
- ・決算報告書
- ・社員持株会

地域社会

- ・工場見学会(学校社会科見学)
- ・インターンシップ(高校生・大学生・社会人)
- ・チャレンジワーク(中学生)
- ・社会貢献活動(地域清掃活動・収集ボランティア活動)

自治体・官公庁 マスコミ

- ・プレスリリース
- ・取材対応
- ・各種経営指標報告

事業パートナー

- ・販売代理店・販売店研修
- ・品質改善会議
- ・販売会社・協力工場・仕入先オンラインシステム

全体

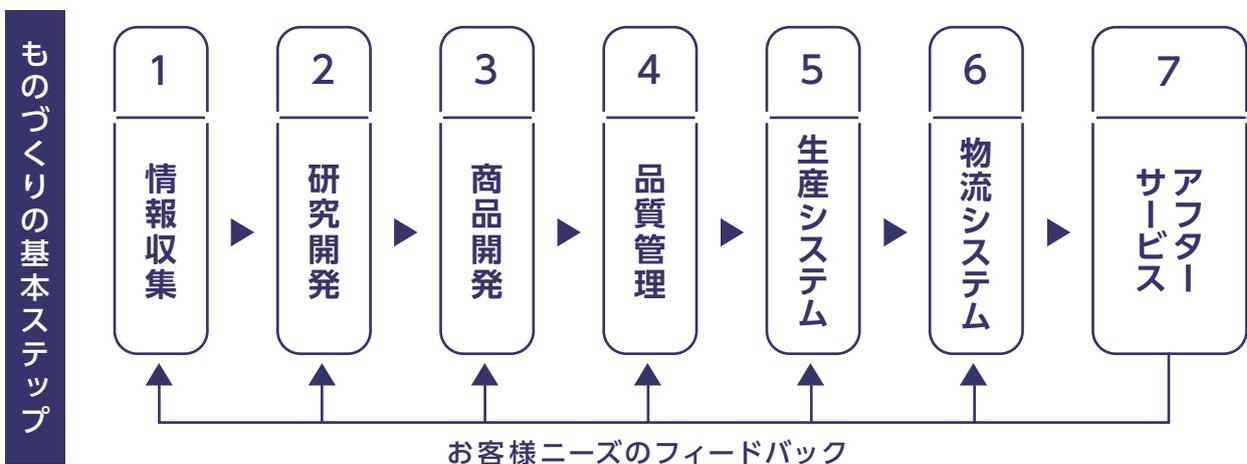
- ・ホームページ
- ・SNS(インスタグラム・Facebook)
- ・トンボCSRレポート
- ・トンボ歴史資料館案内
- ・工場案内
- ・会社経歴書



Facebook

お客様に安心と満足をお届けするために

TOMBOW Quality お客様にとって心地よい制服をお届けするために



1. 情報収集

「お客様のニーズ」「業界動向・トレンド」
「新技術・新素材」などの定期リサーチ



2. 研究開発

「ユニフォーム研究開発センター」
「トンボ工房」による技術開発



品質チェック

技術スタッフの声



品質技術部
小林 葉月

時代が変化していく中で、パタンナーとして全てのお客様に満足してご着用頂けるような設計を心掛けています。また、トンボ品質をより向上させるため、新技術の開発、新素材への対応など、研究開発にも日々取り組んでいます。

3. 商品開発

デザイン性・快適性・審美性など
様々な観点から新しい価値を
創造し、新商品を開発



学校制服

開発スタッフの声



スクール商品開発
新谷 真未

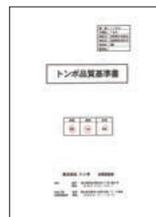
多様化するニーズに対応し、デザイン性はもちろん、素材の機能性や着心地も常に最新のものを提供できるよう、現場の声をヒントに新商品開発に取り組んでいます。学生時代を通してずっと誇りを持って着てもらえるものづくりを目指しています。



大賞・文部科学大臣賞 小学4年生の部
埼玉県 上沖小学校 宮田 涼香さん

4.品質管理

「トンボ品質基準」の制定
「性能評価試験室」の設置により安全性、
耐久性などを自主基準にて厳しく管理
「繊維製品品質管理士」「縫製・パターン
技能士」などの資格取得を推進



トンボ品質基準書

5.生産システム

「生産管理システム」「自動設計
システム」「工程進捗管理システム」
など小ロット多品種のオーダーにも
柔軟に対応できる生産管理



生産ライン

生産スタッフの声



玉野本社工場
遠矢 珠子

全国のお客様に品質・信頼性の高い制服を、お届けするため、多能化の推進と生産性UPの強化に取り組んでいます。一人ひとりが様々な工程に対応出来るよう勉強したり、本流工程の1枚流しを実現し枚数UPを目指します。職場の仲間とのコミュニケーションを大切にして、より良い製品を作っていきたいと思います。

6.物流システム

バーコード識別による
物流システムを導入
コンピューター管理で
全国へ的確に配送・納品



全自動梱包機



バーコード管理

物流スタッフの声



玉野物流サービス部
小川 純平

お客様へ確実に商品を出荷することを意識しながら、日々作業を行っています。また、改善活動やプロジェクトを開催し、出荷ミス撲滅を目指しています。

7.アフターサービス

全国のグループ販売会社・
代理店・販売店と連携した
フォロー体制
「お客様相談室」の設置
「制服着こなしセミナー」の開催



お客様相談室



制服着こなしセミナー

お客様に安心と満足をお届けするために

工程管理でのタブレット活用

縫製ラインの管理をする「進捗表」と、制服の設計図である「仕様書」を活用しながら日々の生産計画を組んでいます。年間での紙の使用量は数万枚に上ります。現在、玉野本社工場ではペーパーレス化と省力化を図る為、タブレット運用による電子化に取り組んでいます。



ズボン裾上げミシンの半自動化

自動化に向けた取り組みとして、ミシンメーカーと共同で裾上げの半自動機を開発し、2019年2月から導入。熟練の社員しかできなかった加工技術でしたが、新人でも同じ品質に加工することができるようになりました。

縫製現場では多種多様な自動ミシンの導入や改善により省力化・標準化を進め、品質と生産性を高める努力を日々行っています。



自動搬送機による材料運搬

玉野本社工場では、裁断生地に芯を貼り番号を書いた後、5つの縫製班に対して、午前午後に分けて計10回の運搬を行っています。今までは人が運んでいたところを、省人化を目指して自動搬送機を導入し運用を始めました。今後も更にムダを省き、自動化に向けて改善活動を続けてまいります。





大賞・文部科学大臣賞 小学5年生の部
広島県 みどり坂小学校 福原 薫子さん

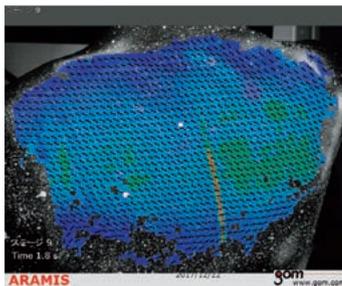
介護施設研修

ヘルスケア本部では「介護する人、される人に優しいユニフォーム」というブランドコンセプトのもと、現場に踏み込んだ商品開発に取り組んでいます。介護施設のご協力のもと、年間を通して研修を行い、介護現場での着用環境を把握するとともに、着心地や作業性の検証を行っています。職員の方にも試作品を着用して頂き、改良を重ねながら新商品を開発。ご協力頂ける施設管理者・職員の皆様に感謝しながら、今後も介護現場に寄り添える商品づくりに努めてまいります。



信州大学との共同研究

2017年4月より信州大学と楽に着用できる「まるでジャージ制服」を開発する共同研究がスタートしました。動きやすさに影響を及ぼすものは何かを検証するために、①設計パターンや表生地、②裏地の仕様、③副資材など様々な視点から何度も試作を重ね、感性評価や動作に伴う変形計測、衣服圧測定を行いました。共同研究で得られた結果を踏まえ、トンボ商品のさらなる拡販のために提案手法を組み立て直し、見た目の良さと着やすさを融合させた他社にない制服作りを進めています。

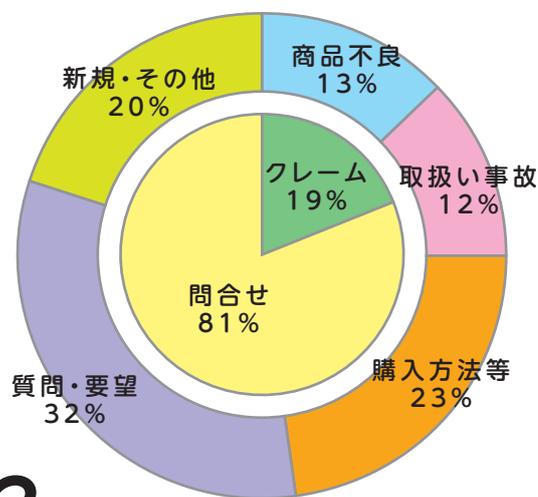


衣服圧測定(背中)



お客様相談室

お客様相談室では、多くのお客様から製品に対するお声やお問い合わせを頂戴しています。メーカーとして素早い「お客様の立場に立ったフォロー」を行うことを念頭に、日々対応を行っています。入学式のシーズン前は、商品の特長やサイズのことなど購入に関するお問い合わせが多く、衣替えの時期には、お洗濯方法などの質問が多く寄せられます。また、残念ながら着用後での商品クレームも頂いております。お客様から頂いたご質問・ご要望は、貴重なご意見として全社で共有し、製品やサービスの向上に反映させて頂いております。



相談内容の内訳

 **0120-314-253**
(お客様相談室フリーダイヤル)

ハイライト

VICTORYスポーツフォーラム2019

世界で活躍したトップアスリートと中学校・高等学校の先生方と「スポーツのチカラ」「スポーツの持つ感動の素晴らしさ」を共有する「VICTORYスポーツフォーラム2019」が前期に続き、7月5日東京都内で開催されました。

司会進行役は元スキー選手の荻原次晴が務め、パネリストは元スキー選手の上村愛子、元バレーボール選手の狩野舞子、元サッカー選手の城彰二、元新体操選手の畠山愛理の4名。

中学校・高等学校のときの競技・指導者との出会いやトップステージを目指すきっかけなどを中心にお話しいただき、来場いただいた先生方は、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

テーマ「元トップアスリートに聞く夢は五輪のステージへ！私を駆り立てたもの。」

ディスカッションの主なポイント

上村愛子「高校の先生が一生懸命さを認めてくれて、背中を押してもらえた」

狩野舞子「苦しい日々にはひたすら技を磨くことが、トップへと進む貴重な一歩だった」

城 彰二「どうしたらうまくなるかは自分で考え、工夫しなければならない素晴らしい指導だった」

畠山愛理「早く練習したい、先生に見てもらいたい。小1の時からスゴ過ぎた私の新体操愛」

(敬称略)



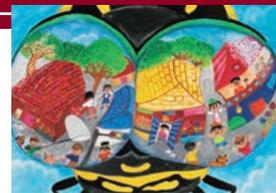
主催：朝日新聞社、朝日学生新聞社、日刊スポーツ新聞社

後援：スポーツ庁、全国市町村教育委員会連合会、(公財)日本中学校体育連盟、(公財)全国高等学校体育連盟

2018キャッチボールクラシックIN横浜スタジアム

2018年11月3日、横浜スタジアムでキャッチボールクラシックを開催致しました。日本プロ野球選手会主催、横浜市少年野球連盟学童部が主管、横浜の制服販売店である(株)つつい様が提供、そしてトンボが協賛させて頂き、「横浜市各区選抜少年野球大会」の開会式後に競技を実施。当日は晴天の中、18チームが参加して、熱戦が繰り広げられました。どのチームも勝ちにこだわり、結果発表での喜び姿、残念がる様子は、大変印象深いものでした。スタンドから応援する保護者の皆さんたちも熱い声援で、大盛況のうちに終えることができました。





大賞・文部科学大臣賞 小学6年生の部
大阪府 勝山小学校 多田 優さん

岡山シーガルズの支援

岡山シーガルズの運営会社は、2019年6月1日から、「岡山シーガルズ株式会社(旧 株式会社ウォーク)」に社名変更し、ますます地元にとって身近なチームとなりました。

今期の支援として提供しているVICTORYユニフォームの着用は、全21試合の内、ホームゲーム全試合に加え、アウェイゲームも半分の着用と拡大し、新たな2種類のユニフォームを着て躍動して頂きます。(レギュラールウンド以外の大会でも着用)

他の応援内容としては、開幕戦応援Tシャツ、選手のセレモニージャージ、コーチ用ベストの提供を予定しています。

是非、皆様も応援を宜しくお願いします。

(敬称略)



左：宮下 遥 中：丸山 亜季 右：山口 舞



左：宮下 遥 右：山口 舞

VICTORYバレーボールウェア販売開始

2018年6月に発表しましたVICTORYバレーボールウェア。2019年5月には、多くのお客様からのご要望のあったWEB上でデザイン作成ができるシミュレーションシステムも公開しました。デザインと色は12,000通り以上の組み合わせが可能で、全国の中学校、高校のバレーボールチームからご注文を頂いています。選手のパフォーマンスを最大限に発揮できるよう、デザインだけでなく素材や設計にもこだわりました。



ハイライト

LGBT^{※1}アドバイザー やま ぐち しょう いち 山口颯一さん

教育現場では、多様性の一つとしてLGBTに対する関心が年々高まっています。一説に日本では、LGBTの方が11人に1人いるといわれる中、トンボは2018年よりLGBTアドバイザーとして一般社団法人ELLY代表の山口颯一さんとアドバイザー契約を結び、当事者の意見を取り入れながら制服作りを行っています。山口さんはLGBTについての講演会を全国で年間約200回近く行っており、その8割が教育現場です。教職員や児童・生徒からLGBTについての相談や、学校内の環境コンサルティング等も行っており、多くの現場で活躍されている山口さんの知見やノウハウを提供頂くことで、児童・生徒様の心に寄り添える制服作りに努めています。

※1 LGBTとはLesbian (レズビアン 女性同性愛者)、Gay (ゲイ 男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル 両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー 身体と心の性が一致しない人)の頭文字を組み合わせた言葉でセクシュアルマイノリティ(性的少数者)の総称としても使われます。



講演会風景

TOMBOW BE-STAR GIRL 全国展開デビュー

トンボ新定番ブランド「TOMBOW BE-STAR GIRL」が全国で展開を広げています。「3年成長コントロール」をテーマに成長しても丈を伸ばして対応できる設計で、最初から大きめサイズを選ぶことなく入学から卒業まで3年間美しく着用できます。ご家庭で糸をほどこくことで誰でも簡単にサイズアップすることができ、各箇所の伸ばし方も動画で分かりやすく説明。生地にはレーヨン混の女生服最新素材「ビスターガールサージ」を業界で初めて採用しており、今までにない、シルクのように柔らかくなめらかな着心地を実現。肌触りも良く、上質感のある表面の風合いが女子生徒の人気を集めています。





大賞・文部科学大臣賞 中学生の部
山口県 川中中学校 富田 涼希さん

YONEX × KIRAKU 介護・医療専門ユニフォームデビュー

ヘルスケア本部から、YONEXの介護・医療専門ユニフォームが2018年10月にデビューしました。介護スタッフユニフォームのKIRAKUで培った介護専門の機能と作業性に、スポーツブランドYONEXの軽快でスポーティーなデザインと動きやすさをプラスしました。地域医療と介護の連携が重要視されている今、ケアとメディカルの垣根を越えた新感覚の“メディケアユニフォーム”を提案していきます。



大型犬用アウトドアウェアACTIVEWAN発売

スポーツウェアの昇華プリントの技術を応用して大型犬用のアウトドアウェアを発売しました。スポーティーなファッション性だけでなく、高機能な素材を使用しており水遊び、雪遊び、ドッグランなど様々なシーンで汚れ防止、保温、皮膚の保護などにお役立て頂けるアイテムです。全身ウェア、ウインドブレーカー、ラッシュガードの3つのアイテムと10種類の豊富なデザインで発売当初から大きな反響が寄せられ、日本国内だけでなく台湾でも展開を開始しました。



マーチング全国大会でVICTORYウェア大活躍

2015年よりカタログ展開が始まったVICTORYマーチングウェアは、昇華転写プリントの美しいグラフィックとスポーツウェアの快適な着心地に加え、家庭洗濯可能という今までのマーチングウェアに無かった新しいカテゴリーを開拓しました。

現在では、全国79チームにご採用頂いています。そのうち20チームは、全日本マーチングコンテストやマーチングバンド全国大会に出場を果たす名門チームです。各チームの名演奏に当社のウェアが華を添えています。



環境方針と環境負荷低減活動

トンボが事業活動で使用しているエネルギーで、電力が最も大きなウエイトを占めています。このため当社では、全社的な節電対策などにより、CO₂の削減に取り組んでいます。その他、自然エネルギーの一つであるグリーン電力を使用した詰襟学生服の製造や、減らせなかったCO₂に対して自らの責任を果たすために、CO₂を相殺するカーボンオフセットにも取り組んでいます。

環境方針

基本理念

株式会社トンボは、創業時よりのブランド「**トンボ**」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

基本方針

1. 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善の推進

私たちは、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。

2. 環境保全活動の推進

私たちは、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。

3. 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の順守

私たちは、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4. 企業活動の展開

私たちは、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。

- ①環境に配慮した素材の導入と製品開発・販売の推進。
- ②使用原材料に含まれる有害物質の安全基準の順守。
- ③資源の有効活用及び省エネルギーの推進によるCO₂排出量の削減。
- ④3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進。
- ⑤カーボンオフセットの実施

5. 自然保護活動の推進

私たちは、以下の自然保護活動を推進します。

- ①トンボ環境委員会活動の推進。
- ②トンボ絵画コンクールへの協賛支援。
- ③トンボと自然を考える会への協賛支援。
- ④学校のビオトープづくり、環境学習への側面支援。
- ⑤真庭トンボの森づくりによる、生物多様性への寄与と自然環境学習の場の提供。

6. 環境方針の周知徹底と公開

環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協業者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。

また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

7. 環境方針の見直し

定めた環境目的・目標が状況の変化に適應できるように、また環境方針が当社にとって適切かつ有効であり続けるように、私が見直しを行います。

2016年7月1日宣言

株式会社 トンボ
代表取締役社長 近藤 知之



大賞・文部科学大臣賞 高校生の部
愛媛県 西条高校 伊藤 愛梨さん

環境負荷低減への取り組み

事業活動における環境負荷低減のため環境マネジメントシステム(ISO14001)に全社で取り組んでいます。取り組みは、各事業本部、間接事務部門、支店、工場、物流センターなど17部門の単位組織で行っています。全社で取り組む共通課題や複数部門が取り組む課題で優先順位の高い目標とその結果について以下に記載します。

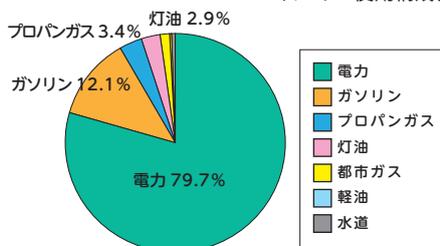
今年度の目標	テーマ	取組状況	達成状況	評価
①CO ₂ 排出量の削減	電力使用量の削減、 残業時間の削減	全17部門の取り組み	2,082.7 t-CO ₂ の目標に対し、全社では101.2%の2,107.3 t-CO ₂ となり、目標より1.2%、24.6 t-CO ₂ 超過しました。	※ ○

今期10月以降、岡山県下6事業所の電力供給先を、よりCO₂排出係数の低い電力会社に変更しました。従いまして、今期のCO₂排出量削減目標は、前期に比べ415.6 t-CO₂を減じたベースで取り組みました。

エネルギー別CO₂発生比率

エネルギー別CO₂発生比率は以下のとおりです。今期は岡山県下6事業所の電力供給先を変更したことにより、前期までに比べ電力の割合が4.1ポイント減少しました。

【エネルギーフローの構成】エネルギー使用構成表

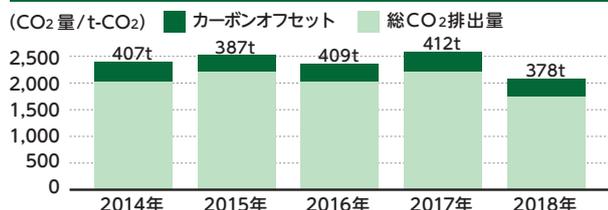


CO₂の発生比率が大きい電力とガソリンについて、電力は全部門、ガソリンは東京本社・支店で削減に取り組みましたが、結果的に全体で目標を1.2%上回りました。注力した電力とガソリンについては好成績でしたが、灯油・プロパンガス・水道の目標値超えが超過の要因です。特に灯油については社員の生活に密着した用途が大きく、管理域を超えた状況になりました。今後も全事業所で継続的改善を目指し、努力してまいります。

【電力使用量の推移】



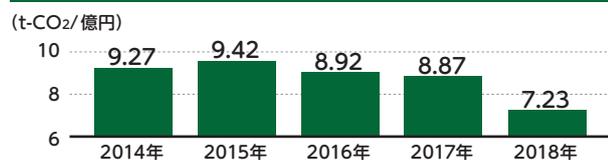
全社のCO₂排出量とカーボンオフセットの推移



左のグラフは、過去5年間のCO₂排出量です。やはり岡山県下6事業所の電力供給先変更による効果が大きく、今期は前期に比べ415 t-CO₂排出減となりました。

カーボンオフセットは、8年目を迎え378 t(前期比▲34 t)を実施し、結果的に前期と比較して、381.6 t-CO₂の負荷が軽減できました。

売り上げ1億円当たりのCO₂排出量の推移

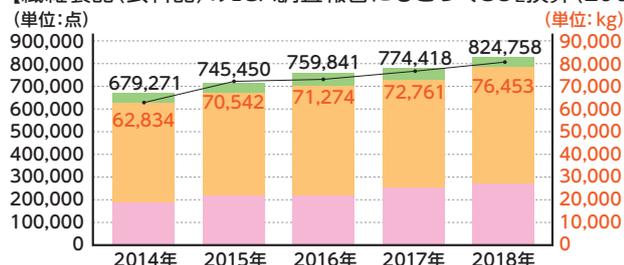


今年度の目標	テーマ	取組状況	達成状況	評価
②エコ製品の販売促進	学校採用の拡大とヘルスケア商品の普及	岡山本社・東京本社及び支店の10部門で取り組み	全10部門が個々の目標で活動、採用校数14校(目標13校)、販売数493,215点(目標493,000点)、品番数181品番(目標157品番)など目標を上回りました。	※ ◎

当社のエコ製品は再生ペットリサイクル素材を利用したものです。

エコ商品販売点数とCO₂削減量の推移

【繊維製品(衣料品)のLCA調査報告にもとづくCO₂換算(2003年5月版)】



今期のエコ製品(再生PET素材使用)の販売点数は、824,758点となりました。バージンポリエステルを使用した場合と比べて76.5 t-CO₂の削減となりました。前期比約3.7 t-CO₂の環境負荷低減が出来ました。

学校制服 体育着 介護ウエア

※評価基準は◎は目標値の100%以上、○は目標と実績の差が2%以内△は5%以内です

環境活動報告

真庭トンボの森づくり活動

2012年から始まった「真庭トンボの森づくり活動」。社員と家族、それに真庭市民が協同で下草刈りや階段づくり、遊歩道の整備などに取り組んでいます。前期は計3回の活動で延べ271名が参加されました。7月には、これまで整備してきた森の中にアスレチック施設が完成。これまでの地道な活動の大きな成果を実感できました。これからも動植物だけでなく、ひとにも心地よい場所になるよう、活動を続けてまいります。



下草刈り



薪割り作業

児童養護施設の子どもたちを招待



2017年に引き続き、2018年10月岡山市にある南野育成園の子どもたちを「真庭トンボの森づくり」に招待しました。午前は班に分かれて下草刈りなどの作業を行い、昼食のバーベキュー準備のお手伝い、また火起こし体験もして頂きました。午後は森の舞台でのミニコンサートを鑑賞し、楽しいひと時を過ごしました。

社員の声



真庭トンボの森づくりに参加して

岡山本社 三浦 諒太

大自然の中での活動で、時には泥まみれになりながら、森の湿原の上に木造の橋を架けたり、山の斜面に木の階段を作りました。

トンボの森を通じて普段は顔を合わせる機会がない人とも交流ができ、毎回、とても楽しみに感じながら参加しています。2019年6月の活動ではシイタケの原木を頂いたので、その原木からシイタケが出来上がるのを楽しみにしつつ、これからも森づくりに参加していきたいです。

社会活動報告

「WE LOVE トンボ」絵画コンクール



大賞・環境大臣賞 小学1年生の部
埼玉県 明正小学校 有山 将生さん

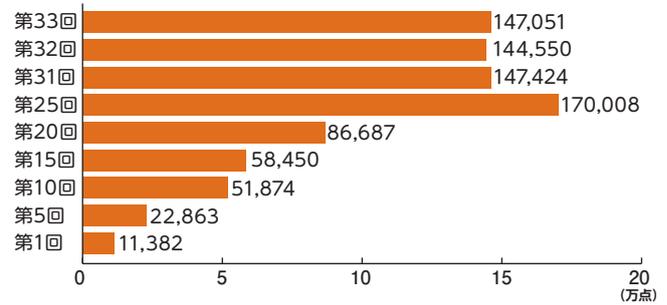
美しい自然のシンボルでもある「トンボ」を観察し、描くことで、子ども達が自然と生き物の大切さに気づき、自然を守る心を育んでもらいたい。その思いに学校関係者様をはじめ、広く皆様にご賛同頂き、「WE LOVE トンボ」絵画コンクールは、2019年で第34回目を迎えます。

創業110周年記念事業として始まったトンボの楽園「トンボ王国」(高知県四万十川)づくりの支援とともに、トンボの棲む環境の大切さを広く伝えるために「WE LOVE トンボ」絵画コンクールの協賛を33年間継続しています。

第1回目では、応募点数が1万点強であった「WE LOVE トンボ」絵画コンクールも「美しい自然のシンボルであるトンボを愛し、守る心を育成し、失われつつあるかけがえのない自然の生き物の大切さを啓蒙する」という趣旨のもと、今回の応募も前回に引き続き全国各地から14万点以上ものご応募を頂きました。

「トンボと自然を守ろう」をテーマに子ども達がトンボの絵を描く機会を提供し、豊かな発想力と技術レベルの高い作品が多数集まりました。小さな生き物への愛情を美しい自然の中で描いたものや、都市や宇宙を舞台に想像力あふれる作品など、バラエティーに富んだ応募作品の数々が、今回も審査員の皆様をうならせ、大変充実したコンクールとなりました。今後も子ども達の描いた素敵な作品に、たくさん出会えることを願い、コンクールの輪を広げていきたいと思ひます。

■応募数推移



大賞・環境大臣賞
小学3年生の部



大賞・環境大臣賞
中学生の部



大賞・文部科学大臣賞
小学2年生の部



大賞・文部科学大臣賞
高校生の部



表彰式



集合写真



記念撮影

トンボ絵画コンクール

検索

- 主催:朝日新聞社 朝日学生新聞社
- 後援:文部科学省 環境省 全国都道府県教育委員会連合会 全国市町村教育委員会連合会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国高等学校文化連盟 全国高等学校美術工芸教育研究会 日本PTA全国協議会 世界自然保護基金ジャパン(WWF Japan) 日本トンボ学会 トンボと自然を考える会
- 協力:株式会社サクラクレパス

社会活動報告

11月29日 いい服の日

<https://www.tombow.gr.jp>

トンボ いい服

検索

最良のユニフォームメーカーを目指し、着る人が着心地に満足し、大人になったとき自分の子どもにも着せたいようないい服をつくるのがトンボの使命です。その気持ちを新たにするとして11月29日を「いい服の日」に制定しています。

※11月29日は、「いい服」の語呂合わせとして、2010年に日本記念日協会へ登録されました。また商標としても登録されています。(第547581号)

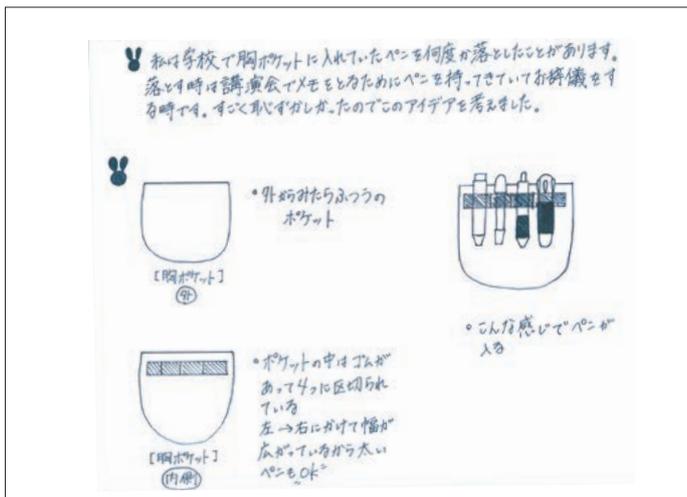
第9回1129トンボアイデア・デザインコンクール

11月29日 いい服の日を記念し、「生徒の皆さんに斬新な創造力を発揮して頂く機会を」という趣旨のもと、学校制服や体育着のアイデアを募るコンクールも今回で第9回の開催となりました。全国の中学校・高等学校の生徒の皆様より、アイデア部門3,260点、デザイン部門7,439点 合計10,699点ものたくさんのご応募を頂きました。

また、数々の力作の中から厳正な審査のうえ入賞作品を決定し、12月1日に岡山市北区の山陽新聞社さん太ホールにおいて、表彰式ならびにファッションショーを開催しました。受賞者やそのご家族、先生方をご招待し、実際に入賞作品のアイデア・デザイン画がカタチとなった作品を見て頂き、大変盛り上がる表彰式となりました。

最優秀賞 (アイデア部門)

絶対に落としまペン!



兵庫県立兵庫工業高等学校 3年
仲上 星奈さん

最優秀賞 (デザイン部門)

理想の制服



岐阜県立大垣工業高等学校 2年
森 星也さん





大賞・環境大臣賞 小学2年生の部
埼玉県 大袋小学校 小林 紗奈さん

キラク介護川柳

<https://www.kiraku.gr.jp>

キラク介護川柳

検索

介護にまつわる川柳を募集しているキラク介護川柳は、毎年たくさんのご応募を頂き、第12回目を迎えることができました。「毎年楽しみにしています」と言ってくださる方も多く、キラク介護川柳がたくさんの方々を支えられていることを実感しています。寄せられる川柳からは、相手を思いやる優しさ、介護と向き合う強さ、辛いこともユーモアに変えて笑い飛ばすおらかさが伝わってきます。それらは川柳に触れた私たちに、前向きに進むパワーを与えてくれます。これからもキラク介護川柳を通して、たくさん笑顔と元気が生まれることを願っています。

第11回受賞作品 (2018年3月～6月募集分)

キラク大賞

「リハビリの窓に貼ってる旅パンフ」
ペンネーム あっちゃん様

鈴木ひとみ賞

「アメ1つもらってデイの友ができ」
ペンネーム 花菜様

優秀賞

「デイに行くおうちが大好きなんだけど」
ペンネーム あゆか様

「母親が小さくなって待っている」
ペンネーム かたこりこ様

「人生の四コマまんがの四コマ目」
ペンネーム かのカッチャン様

■団体賞表彰式

やすらぎの杜 美山デイサービス様利用者様から多数ご応募を頂きました。共に通う利用者様とのおしゃべりの中で生まれた句や、感謝の気持ちを表現した句が多く、ご施設でワイワイと楽しい時間を過ごされている光景が目に見えます。みなさまの川柳を拝見し、ほっこりと温かい気持ちになりました。



表彰式にて

キラクふれあいフォトコンテスト

<https://www.kiraku.gr.jp>

キラクふれあいフォトコンテスト

検索

第9回目を迎えたキラクふれあいフォトコンテストでは、介護のふれあいから生まれる「笑顔」と「感動」をテーマにした作品を募集しています。応募頂いた作品の、被写体の幸せに満ちた表情から、撮影者との信頼感や安心感が読み取れます。特に、施設職員様と利用者様、またお孫さんとの作品は、笑い声や会話が今にも聞こえてきそうなほど臨場感あるものが多く、幸せな気持ちにさせて頂きました。これからも介護に携わる多くの方にとって、キラクふれあいフォトコンテストが元気や心の癒やしになることを願っています。

第9回受賞作品 (2018年11月～2019年2月募集分)

キラク大賞

「早く食べたいなあ!」



ペンネーム あすなろ様
皆さんで柿の皮むきをし、干した2日目の頃。干され具合をみに顔を出した方の笑顔です。

優秀賞

「なでなで」



ペンネーム ムゲン様
ひ孫が施設に遊びに行きました。頭を撫でられるのが嫌いなひいじいちゃん。頭撫でて「嫌じゃ」って、はしゃいでじゃれてました。

「もう、おまえも爪立てんようになったなあ。」



ペンネーム よめひろちゃん様
義父87歳義母90歳、認知症の義母を自宅介護で頑張っていた義父だが、結局義母は施設に入所。家にいる頃はすったもんだあったのに毎日欠かさず面会に訪れる義父。爪切りもおぼつかないが、何かいいなあ。

らんまん
「春爛漫」



ペンネーム 榊夢之介様
満開の桜と共に二人の笑顔も満開でした!

社会活動報告



トンボオリジナルキャラクター

「トンボ 学君」「トンボ 衣乃ちゃん」活動報告



トンボ 衣乃ちゃん

岡山東商デパート

2018年11月17日に岡山ドームで開催されました岡山東商デパートに「トンボ 衣乃ちゃん」が参加しました。

岡山東商デパートとは、岡山東商業高等学校の生徒の皆さんが主体となり地元企業協力の元、販売実習を行うものです。

当日は7,000名以上のお客様が集まり、「トンボ 衣乃ちゃん」は子どもたちに大人気となり写真撮影に追われていました。

岡山東商デパートのイベントを盛り上げるキャラクターとして大活躍でした。



第4回UAゼンセンファミリーフェスタ

2019年6月1日に岡山県のコンベックス岡山で開催された、第4回UAゼンセン岡山県支部ファミリーフェスタに「トンボ 学君」と「トンボ 衣乃ちゃん」が駆けつけました。UAゼンセンファミリーフェスタは岡山県内に拠点があるさまざまな企業の労働組合が、協力して開催する家族向けのイベントです。「トンボ 学君」「トンボ 衣乃ちゃん」は岡山県マスコットの「ももっち」と一緒に会場を盛り上げ、周りにはいつも子ども達が集まって大人気でした。

トンボのブースでは制服残布を使ったポケットティッシュケース作成の体験コーナーを出展し、こちらも大盛況。「トンボ 学君」「トンボ 衣乃ちゃん」と力を合わせ、しっかりとトンボの活動をPRすることができました。





大賞・環境大臣賞 小学3年生の部
東京都 美南小学校 井料 柚香さん

工場見学・インターンシップ・ チャレンジワーク等による地域貢献

当社では工場見学の要望へ積極的にお応えし、地域の皆様や学校関係者様の理解を深めていただけるように努めています。また、各事業所でインターンシップやチャレンジワークの学生・生徒を受け入れ、労働についての学びの場を提供しています。

工場見学・インターンシップ・チャレンジワーク受け入れ人数

(2018年度)

	岡山 本社	玉野本社 工場	岡山 工場	美咲 工場	東京 本社	大阪 支店	名古屋 支店	岡山 支店	福岡 支店	合計
工場見学	—	1,311	17	90	—	—	—	—	—	1,418
インターンシップ(高校生・大学生・社会人)	33	11	2	0	28	17	12	7	5	115
チャレンジワーク(中学生)	0	4	0	2	13	0	0	2	8	29

中高生のチャレンジワーク

東京本社

東京本社では、毎年中学生・高校生のチャレンジワークの受け入れを実施しています。学校様の要望に応じて日数、講義内容などを設定しオーダーメイドで対応しています。講義内容はデザイン、企画、コーディネート、プレゼンテーションなど企画の仕事を経験する内容で、相手に対して自分の想いや学校像などの情報をどれだけ伝えられるかを学んでもらいます。写真は2018年8月に実施した中学生5名のチャレンジワークの様子です。皆さんとても真剣に取り組み、ハイレベルな発表をしてくださりました。



キャリア教育(荘内中だっぴ)

岡山支店

岡山支店では、地域貢献、キャリア教育への参画として荘内中だっぴへ参加しています。

だっぴとはNPO法人だっぴが運営しているキャリア教育プログラムです。中学生、高校生と地元社会人との交流、対話を通じてお互いに学びあい、中高生の将来を見通すきっかけをつくる場になっています。前期で2回目の参加でしたが、中学生にとって身近な地元企業で働く社会人の考え方に触れ合う機会となっており、生徒さんは大きな刺激を受けて頂いたものと自負しています。



キャリア教育支援

名古屋支店

三重県立明野高等学校様では、2019年度から制服を一新。採用された新制服は、トンボキャリア教育支援の一貫として、生徒さんが企画・デザインを行いました。約10ヶ月、トンボスタッフが講師として授業を行い、自分達で地元根付いたコンセプトを考え、デザインを起し、最終的には校内検討委員会へプレゼンテーションを実施しました。三重県伊勢市を代表する素晴らしい新制服が出来上がった喜びと同時に、この取り組みに参加した生徒さん達の成長の過程を共有することができました。今後も更なるキャリア教育を継続し、生徒さんに成長してもらう機会を提供してまいります。



社会活動報告

日本唯一のユニフォーム研究開発センター

『最良のユニフォームメーカーを目指す』を旗印に、トンボ創業120周年記念事業として、当社創業の地であり、現在の玉野本社工場敷地内に設立したのが、ユニフォーム研究開発センターです。1階にはパターン作成と、仕様を確定する製造の司令塔ともいえる品質技術部が入り、2階の広大なスペースには、ユニフォームミュージアムと、新作や近年ご採用頂いた制服をお披露目するショールームがあります。特にミュージアムは、飛鳥時代から始まる日本の学制を彩った、その時々々の学生のスタイルを再現しており、日本のみならず世界から見学者が訪れています。また、同敷地内には八正館(トンボ歴史資料館)があり、トンボの140年にわたる歴史を、創業時からの製品や工具・設備、ポスターなどの展示物で紹介しています。



ユニフォーム研究開発センター



八正館(トンボ歴史資料館)

※一般公開はしていません。

東日本大震災復興支援トンボスマイルキャンペーン

学校制服・体育着の売上の一部を、東日本大震災の被災3県(福島県・岩手県・宮城県)の子ども支援基金などに寄付する「トンボスマイルキャンペーン」事業も今期で8回目。今期も近藤社長が福島民報社・岩手日報社・河北新報社の3社へ伺い、義捐金の贈呈を行いました。震災直後に小学校に入学した子どもたちが高校を卒業するまで今後も寄付を継続していく予定です。



いわての学び希望基金(岩手日報社にて)

真備陵南高校地域応援プロジェクトへ商品寄付

岡山県社会福祉協議会と倉敷市社会福祉協議会を通じて、真備陵南高校が行っている西日本豪雨被災地復興支援「真備陵南高校地域応援プロジェクト」に、体育着(シャツ・パンツ)、インナーシャツ、靴下等、約100点を寄贈させて頂きました。先方様からは感謝の声を聞くことができ、復興に向けて頑張っている皆様に少しでもお役に立てたことを光榮に思っています。



各事業所での活動



大賞・環境大臣賞 小学4年生の部
大阪府 丸山小学校 奥野 莉央さん

UNOICHI

玉野本社工場のブランディング活動の一環として、地元玉野のマルシェイベント「UNOICHI」へ参加。「トンボエコ工房」と題し、不要になった残布を使ったポケットティッシュケース作りが無料で体験できるブースを出店しました。イベント当日はあいにくの強風でしたが、多くの方に来場頂き、お子様を中心にたくさんの方に楽しんで頂くことができました。



岡山西小学校児童安全サポート

岡山支店では近くにある岡山市立西小学校の子どもたちのための「安全サポート活動」に参加しています。実施は2か月に一度、支店のある町域の事業所が分担して下校時の誘導をしています。市内中心部で碁盤の目のように道路が交差している地域。歩道の整備状況が悪い一方、営業車も沢山行き交っています。しかし児童たちは元気いっぱい、跳んだり走ったり、夢中でしゃべったり。事故にあう可能性も高く、見守り・誘導が欠かせません。子ども達が普段から安全に気遣うことができるよう、継続してサポートしていきます。



小学校フェスタでの 残布使用箸袋作り体験

福岡支店では、毎年地元小学校でのフェスティバルでマイ箸袋作り体験を開催しています。材料は制服の残布を使用し、環境への負荷を軽減するためのリサイクルを推進するとともに、親子一緒にもの作りの楽しさを体験して頂ける機会を提供しています。



ホンデリング ～本で広がる支援の輪～

ホンデリングとは、不要になった書籍を寄付し、その書籍を売却した金額が犯罪被害者の方々の支援活動団体に寄付される活動です。岡山本社の談話室に収集箱を設置し、3年目を迎えました。活動に理解賛同する社員も年々増え、今期は約100冊の寄付を行うことができました。



VICTORYスポーツ教室

スポーツを通して心の教育を

全国の中学校、高等学校に「憧れのアスリート」が直接赴き、講演と実技指導を無料で行う画期的なプログラムです。2001年からスタートしたVICTORYスポーツ教室は、実施校をはじめ各方面から毎年大きな反響を頂いています。



<https://www.tombow.gr.jp>

2018年実施校

山梨県	県立北杜高等学校	バレーボール	大林 素子
静岡県	飛龍高等学校	サッカー	北澤 豪
東京都	日本女子体育大学附属二階堂高等学校	バドミントン	小椋 久美子
兵庫県	県立川西緑台高等学校	陸上	有森 裕子
長野県	松商学園高等学校	サッカー	城 彰二
福島県	県立二本松工業高等学校	バドミントン	小椋 久美子
大阪府	大阪商業大学高等学校	サッカー	松木 安太郎
宮城県	多賀城市立第二中学校	バレーボール	大林 素子
鹿児島県	尚志館高等学校	サッカー	福田 正博

(敬称略)



小椋 久美子



松木 安太郎



福田 正博



有森 裕子

主催：朝日新聞社、朝日学生新聞社、日刊スポーツ新聞社

後援：スポーツ庁、全国市町村教育委員会連合会、(公財)日本中学校体育連盟、(公財)全国高等学校体育連盟

VICTORYスポーツ教室講師陣 (順不同・敬称略)

松木 安太郎・城 彰二・宮澤 ミシェル・永島 昭浩・名良橋 晃・北澤 豪・福田 正博(サッカー) 桧山 進次郎(野球)
 杉本 美香(柔道) 大林 素子・益子 直美・大山 加奈・山本 隆弘(バレーボール) 伊東 浩司・有森 裕子・朝原 宣治(陸上)
 沢松 奈生子・神尾 米・鈴木 貴男(テニス) 陣内 貴美子・小椋 久美子(バドミントン) 原田 裕花(バスケットボール)
 宮崎 大輔(ハンドボール) 大畑 大介(ラグビー) 宇津木 妙子(ソフトボール) 田中 雅美・星 奈津美(水泳)



大賞・環境大臣賞 小学5年生の部
東京都 豊明小学校 増田 紫乃さん

スポーツ大会等の協賛支援

トンボでは、全国の小学校、中学校、高等学校を対象とした、各種スポーツ大会の開催、協賛を行い、生徒・児童のスポーツを通じた心と体の育成や交流を支援しています。

ビクトリーカップ野球大会

■大阪支店

大阪支店では2017年より中学校軟式野球のビクトリーカップを主催しています。毎年8月上旬から予選が始まり、大阪市内の中学校8校が、熱戦を繰り広げました。7月に3年生が引退し、1・2年生の新チームとなります。勝ちにこだわりながらも純粋に野球を楽しんでプレーしている選手の姿から私達も元気ももらっています。今後は大会の規模拡大も考えながら、中学校軟式野球の振興と競技人口増加に向けて少しでもお手伝い出来ればと考えています。



岡山シーガルス バレーボール教室

■茨城トンボ(株)

2018年8月30日、茨城県立佐和高等学校にて岡山シーガルの丸山選手、下司選手、神田コーチを講師に迎え、「岡山シーガルス バレーボール教室」を開催。佐和高等学校バレーボール部に加え、近隣の中学生を含む約60名が、実体験を踏まえた講話と熱心な指導を受けました。先生からも「今回で3回目ですが、プロの選手に教わる貴重な体験をさせて頂き感謝しています。参加した中学生も佐和高等学校バレーボール部に入学していますので、今後ともよろしくお願ひします。」と感謝の言葉を頂きました。今回学んだ生徒さんが将来トッププレーヤーとして活躍し、バレーボール競技がさらに盛り上がっていく礎となれば幸いです。



小学校ミニバスケットボール大会

■福岡支店

福岡支店では2018年より小学校ミニバスケットボール選抜交流大会「トンボカップ2018」を開催しています。今大会は優勝チームを決めるのではなく、試合機会が少ない別の地区との交流を深めることを目的とした大会です。福岡県全域から男女合計20チーム総勢300名が各地区より参加し、日頃の練習の成果を発揮しながら、各地区のプライドを懸けた熱戦が繰り広げられました。試合後は選手同士、笑顔で握手を交わす場面もあり、良き交流大会となりました。今後も継続し、小学校スポーツをサポートしてまいります。



社会活動報告

公益財団法人 はっしょうかい 八正会

公益財団法人八正会は、岡山県内の高校生を対象に、返済不要の奨学金を給付している育英事業団体です。

八正会の歴史と意味

八正会は、初代社長三宅保正が、「社会に少しでも恩返しをしたい」との思いから、1956年に私財を投じて始めた育英事業で、1960年に財団法人設立認可を受けました。岡山県内に在住し、県下の高校に進学する生徒に奨学援助を行い、人材育成を支援しています。設立から現在までに、約800名の奨学生を支援しています。

八正会という名称は、八つの正しい道(正道、正志、正語、正業、正命、正精神、正念、正定)という仏法の八正道の教えにちなんだものです。なお、公益財団法人八正会は、宗教とは関係ありません。

八正会の活動

八正会では、年4回の研修会を行い、人間性の向上と奨学生同士の親睦を深めています。

特に夏期研修会は、2泊3日の日程で、学年や学校を超えて絆を深め合うことができ、「不安だったけど、参加してよかった」「みんなと仲良くなれてよかった」などの感想が寄せられます。また、入会式や歓送会の際に、皆が大きな思い出として語るのもこの研修です。卒業後も、「八正会でしか経験できない貴重な時間」として、深く記憶に残る行事となっています。

4月 入会式

現会員や役員、OB・OGが集まって新会員を迎えます。



8月 夏期研修会

2泊3日の宿泊研修。ディベートやレクリエーションなどを通じて交流を深めます。



11月 秋期研修会

講演会や工場見学、梨狩りなどの野外活動を行います。



1月 歓送会

卒業生を送り出します。



機関誌「やまびこ」の発行

会員の交流の場として、また会員一人ひとりが自己を省みる場として、会員・役員・OB・OGの執筆による機関誌「やまびこ」を年2回発行しています。

<https://www.hasshoukai.or.jp>

公益財団法人八正会

検索



健全な企業風土づくり



大賞・環境大臣賞 小学6年生の部
埼玉県 明正小学校 内田 悠介さん

女性活躍推進活動 女性が働きやすい職場環境を目指して

育児短時間勤務

産休、育休、育児短時間勤務の制度を使い、活躍する女性が増えてきました。短時間勤務で時間に制約がある中で働くことは周囲の理解と協力が不可欠。本人はもちろん、支える社員も仕事のやり方を見直し、効率的に仕事を行い、双方の負荷を最小限に抑えるように努力しています。また、制度取得者と支える社員の個人面談や、両者が何でも言い合えるコミュニケーションの場を定期的で開催するなど、風通しの良い職場作りを心掛けています。尚、現在のトンボ規定では、小3まで利用できるようになっています。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
育児短時間勤務者(人)	3	3	10	8	9

企業主導型保育園契約

岡山工場では2年前より育休復帰支援として、企業主導型保育園と提携しています。これらの保育園は内閣府主導の助成制度で認定を受けた施設で、働き方に応じ多様で柔軟な保育サービスが認可並みの料金で受けられます。当事業所でも待機児童による復職遅延の問題が深刻化しているため、今後も仕事と子育てを両立するための支援となることを期待しています。

Will Withプロジェクト

Will Withプロジェクトは各事業所から女性社員が集まり、「働きやすさ」や「働きがい」について考え、活動しています。今期は職場環境の改善、会社制服の検討、女性活躍推進の社内広報を推進。また前期より企画していた女性社員を対象にした「モチベーションアップ研修」も開催しました。今後も皆が働きやすい職場づくりを目指してまいります。

社員の声



育児短時間勤務を利用して

岡山本社 更井文枝

現在4歳と7歳の息子の子育ての為に、育児短時間勤務制度を利用しています。以前は子どもの年齢が3歳までの制度でしたが、「3歳になったら急に子育てが楽になるわけでもないし二人もいるしどうしよう、仕事続けられるかな…」と悩んでいたところ小学校3年生までに拡大となり、大変助かっています。おかげで子どもも親も環境の変化が多い「小1の壁」と言われる時期も何とかクリアすることが出来ました。時間に制約のある時短勤務ですので、何かと忙しいのですが、少しでも会社のお役に立てるように頑張ります!!

託児施設

子育て世代の社員が安心して働ける環境づくりのために、玉野本社工場には託児施設を設けています。



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
託児所利用者数(人)	17	17	19	12	26

※1年間に利用した子どもの数(一時預り含む)

育児・介護休業制度

1年間(最長1年6か月)の育児休業制度ならびに6か月間の介護休業制度を設け、仕事との両立を支援しています。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
育児休業取得者(人)	16	11	9	15	9
介護休業取得者(人)	0	0	0	0	0

ウーマンズプロジェクト

ウーマンズプロジェクトは2013年に始まり、「女性の目線を大切にしたいアイデアからの製品化」や「女性が活躍できる環境整備」という課題に、部署の垣根を越えて取り組んでいます。無の状態から商品開発や、職場環境について様々な意見を聞く機会は、通常業務とは違った勉強の場となっています。ヒット商品の誕生を目標に、これからもプロジェクトに取り組んでまいります。

健全な企業風土づくり

社員が満足して働ける環境を目指して

勤務間インターバル制度

改正労働時間等設定改善法が2019年4月1日に施行され、前日の終業時刻から翌日の始業時刻の間に一定時間の休息を確保することが事業主の努力義務として規定されました。このためトンボでは、1月～5月の繁忙期は9時間、6月～12月は11時間の休息を与えることとし、社員の健康確保とワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の向上を図っています。

障がい者雇用

トンボではかねてから障がいを持った方がいきいきと働ける職場づくりを目指して取り組んできました。2018年4月より、法定雇用率が2.2%になりました。しかし近年は社員数の増加に対し離職による障がい者の減少や新たに雇用する機会に恵まれず、法定雇用率を下回っており改善努力が必要です。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
障がい者雇用率(%)	2.49	2.59	2.06	2.09	1.85

社員の健康管理

社員が心身ともに健康な状態で働き、能力を発揮できるよう、年に1回の健康診断、健診結果に対しての2次検査のフォロー、協会けんぽの保健師による特定保健指導、長時間労働者への産業医の面談などを行っています。

こころの健康相談室

社員が何でも相談できるように社外の第三者機関に「こころの健康相談室」を設けています。また2年毎に社内でもメンタルヘルスセミナーを開催し、2019年は「ワークエンゲイジメント～いきいきと仕事ができるために～」と題して各事業所で実施しました。2018年7月から2019年6月までの延べ相談件数は、電話が9件、メールが2件、ウェブが2件、来所が5件、カウンセリングが32件でした。

計画年休制度

2018年9月の有給休暇の一斉付与のタイミングで組合と協定を結んで「計画年休制度」をスタートしました。これは2019年4月の働き方改革法のスタートに先駆けての取り組みです。

有給休暇の取得率をアップし、今まで取りにくいと感じていた社員が少しでも休みを取りやすくし、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を大切にできる環境を目指します。

再雇用制度

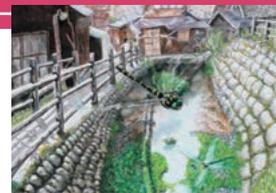
60歳定年後も引き続き勤務する意思のある人を対象とした再雇用制度を設けています。

		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
定年到達者(人)	男	4	9	7	9	4
	女	11	7	11	7	3
再雇用者(人)	男	4	7	6	8	3
	女	9	7	8	7	3

労働安全衛生対策

各事業所単位で安全衛生委員会を設け、全社確認会を行っています。一例をあげると、玉野本社工場では5S安全衛生委員会を設け、毎月の職場巡回を実施。危険個所の抽出、整理整頓、環境測定などを行い、職場の環境整備に努めています。また、実残業をチェックし、繁忙期の過重労働予防として部分交代制も導入しています。





大賞・環境大臣賞 中学生の部
和歌山県 河南中学校 野村 和志さん

新入社員のサポート体制



フォロー研修

生産物流部門では、新入社員のサポートとして、入社後1ヶ月間の毎日ミーティングと6ヶ月後のフォロー研修を行っています。研修では、グループワークで現状分析と今後の課題を討議し、個人の目標に落とし込んでいます。また班の工程管理者との交換日記や、入社3年目まで毎年勤労課で行うヒアリングもあり、疑問や悩みを共有することで、緊張や不安を軽減することができます。更に数年後には、先輩社員として後輩を指導、育成する力にもつながっています。

社内報

当社の社内報は、現在1年間に3回のペースで発行しています。内容は、社長の言葉、各事業所の情報、社員の結婚や出産の情報、趣味のコーナーなどです。社内報は、会社と社員を繋ぐ情報伝達手段の一つとして大事な役割を担っており、これからも続けていきたいトンボの文化の一つです。

組合活動

当社と労働組合「トンボユニオン」とは健全な労使関係にあります。社員の労働条件や労働環境などについて交渉・協議を行うだけでなく、定期的にレクリエーションを行いコミュニケーションの機会を設けています。

スポーツ活動

野球サークル

野球サークルでは生産・物流の野球好きが集まり楽しく野球をしています。また年に1回一大イベントでもあるTBC(トンボベースボールクラシック)があり、各事業所対抗の野球大会も開催しています。

バスケットボールサークル

生産・物流の新入社員と若手を中心に、楽しくバスケットボールをしています。サークルでは年齢に関係なくチームを作り、社員同士の良い交流の場となっています。

BCP対策と防火・防災訓練

トンボではBCP(事業継続計画)として災害が起きた際のリスク軽減や早期復旧のために、非常時に社員の安否確認ができるシステムの構築や非常食・災害復旧用品の備蓄をしています。また、事業継続の妨げとなるボトルネック解消策として、生産拠点の分散や多能化にも取り組んでいます。各事業所では防火・防災対策として毎年訓練を実施。防災訓練では、災害備品の搬出、避難人員の確認、消防署や近隣病院の状況確認、二次災害防止対策、ライフラインの確認、衛星電話での各事業所との連絡確認などを実施しています。

健全な企業風土づくり

トンボスクール

トンボスクール体系

社内研修		外部派遣研修
①専門職能資格者研修 <ul style="list-style-type: none"> ・評価者研修 ・新任役職者研修 ・コーチングスキル研修 	②階層別研修 <ul style="list-style-type: none"> ・新入社員研修、新入社員フォロー研修 ・チームワークトレーニング研修 ・2年目研修 ・3年目研修 ・技能職研修 初級(3年目) ・OJTリーダー育成研修(4年目) ・キャリア開発研修(5年目) 	①幹部研修 <ul style="list-style-type: none"> ・チームリーダースクール ・中堅リーダー革新セミナー ・女性リーダースクール ②一般研修 <ul style="list-style-type: none"> ・修養団みがく講習会 ・QCステップアップ研修 ③公開講座(階層別社員選択) <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・ビジネスマインド ・ビジネススキル ・リスク管理 ・マネジメント ・業務改善 など
③専門別研修 <ul style="list-style-type: none"> ・営業基礎力実践強化研修 	④一般研修 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインセミナー(54歳、57歳) ・セクハラ相談窓口セミナー ・接遇勉強会 ・Will Withモチベーションアップ研修 	
⑤相互交流研修 <ul style="list-style-type: none"> ・短期社内留学研修 	⑥グループ会社研修 <ul style="list-style-type: none"> ・セールス研修 ・ベーシックスクール(1~2年目) 	



新入社員研修



ベーシックスクール



OJTリーダー育成研修

資格取得支援

社員一人ひとりのスキルアップを目的に、資格取得を応援しています。会社が奨励する資格取得者には、お祝い金を支給しています。

取得資格名	2018年取得者数	総取得者数
繊維製品品質管理士(TES)	1	29
技能士(縫製)	10	67
技能士(パターン)	0	12
技能士(機械整備)	0	3
色彩能力検定	1	2
販売士	0	16
日商簿記検定	0	3
秘書技能検定	0	1
衛生管理者	3	33
危険物取扱者	0	5
電気工事士	0	1
eco検定	1	21
愛玩動物飼育管理士	1	3

通信教育支援

自己啓発と人事制度の両面から、社員の通信教育受講を推奨しています。通信教育講座は、事前に会社推薦や部門推薦コースを設定することで受講しやすいように工夫し、期間中はフォローカードと上司からの声かけで、全員が修了を目指せるように支援しています。また受講期間内に修了した場合には、受講料の援助金を給付。毎年多くの社員が活用しています。今期は、233名が受講し、修了者197名、修了率84.5%という状況でした。

短期社内留学

社員が担当業務に関連する他部署の仕事を1週間程度体験する事により、業務知識や技術を幅広く学び、スムーズな業務連携ができるようになります。この制度を通じ、社員・部門間の相互的な連携を深め、成果を発揮できるよう今後も取り組んでいきます。



大賞・環境大臣賞 高校生の部
京都府 京都芸術高校 白木 雅さん

マナー教育(心の手帳勉強会)

「心の手帳」は、トンボの社員が気持ちのよい職場生活を送るため、またお客様に満足して頂ける対応の手引きとして、1978年より発刊しています。社員の要望や意見を取り入れ、トンボ流のルールやマナー、おもてなしの心を込めた一冊として、普段の業務はもちろん、研修や勉強会等でも活用しています。



社員の努力評価、表彰制度

ブランディング活動、コストリダクション活動、改善提案活動など、社内で社員がさまざまな活動に取り組んでいます。それぞれの活動に対して、1年間の成果を評価し、努力した社員やチーム・組織を表彰しています。



マイスターインストラクター制度

トンボの「現代の名工」と呼ぶに相応しい卓越した技能者に「マイスター」、「インストラクター」の称号を与え、認定を受けたベテラン社員から若手社員への技術継承を推進しています。6名の社員を認定しています。



キャリアデザイン研修

60歳の定年まで、また定年後もイキイキとやりがいを持って働くために、54歳と57歳を対象としてキャリアデザインセミナーを毎年開催しています。今期も18名が参加し、自分のライフプランやこれから自分が何をしなければならないかを考えるきっかけ作りにももらったり、これからの能力開発について考えてもらいました。

60歳到達説明会

60歳到達から定年を迎えるにあたり、雇用保険の手続きや年金の請求、退職金など、様々な準備や手続きについて説明会を行っています。定年を迎える半年前にグループで実施することで、社員の不安解消やライフプランを考える一助となっています。実施後のアンケートでは、内容は難しい部分もあるが、これを機に個人的にも質問しやすくなった、という声が多く聞かれています。

社員の声



通信教育3年連続優秀賞

紅陽台物流サービス部 鳥越 敦史

毎年受講している通信教育講座で、3年連続して優秀修了ができ、特別賞を頂きました。学生時代には決して勉学に励むタイプではありませんでしたが、当講座は業務に直結した内容が多く興味が尽きません。

先日の創立記念式にて社長より「3年といわず10年目指して頑張ってください」とお言葉を頂きました。今後も優秀修了を継続することは勿論、通信教育で得た知識を最大限活かし日々精進していきたいと思っています。

ブランディング活動報告

シーズンテーマ：もっとブランディング

今期は、これまで以上にブランディング活動に取り組んでいくことを目標に全社18部門がそれぞれテーマを設定し、活動を行ってきました。各事業所ごとに様々な活動に取り組んだ結果、下記5事業所に対し、ブランディング委員会の推薦、取締役会での検討を経て社内表彰を行いました。

最優秀賞 玉野本社工場

社員みんなで創るトンボブランディング



クレーム勉強会

玉野本社工場では、前期から引き続き今期も地元のイベントへの参加や社内でのクレーム勉強会、古切手・ベルマークの収集、ブランディング便りの発行など幅広くブランディング活動を行いました。特に今期はブランディング委員だけでなくすべての社員がブランディング活動に参加できるよう社内で幅広く声掛けを行い、トンボブランドの価値向上に貢献できるよう心掛けて活動しました。今後も引き続き、社員全員がトンボの社員として誇りを持って活動できるようブランディング委員を中心にブランディング活動に取り組んでいきます。

優秀賞 財務部

チャレンジコミュニケーション

財務部では、トンボが33年間協賛を続けている「WE LOVEトンボ絵画コンクール」の入賞作品を銀行様のフロアをお借りして展示しています。今期は3つの銀行様に展示をお願いして、お客様に喜んで頂くことが出来ました。また、もう一つの活動として使用済み切手を収集しボランティア団体に寄付をする活動を長年行っています。前期からは活動を全社に展開して沢山の使用済み切手を収集できるようになり、今期は1,513g寄付しました。今後も微力ながら社会のお役にたつよう、取り組みを続けて参ります。



優秀賞 美咲工場

今日を大切に心をつなげよう

美咲工場では、地域の方々に喜んで頂ける、また、子どもにトンボファンになって頂くブランディング活動をモットーに近隣保育園のイベントへボランティア参加(節分会の鬼役や豆のプレゼント、ひな祭り会でのひなあられプレゼント等)、小学生の夏休み宿題お助け隊の先生役などお手伝いさせて頂いています。子ども達とのふれあいでトンボ社員も元気と力を頂き、大変ありがたく感じています。また、スポーツウエアの生産工場として、ブランディング活動を通して全員参加で魅力ある商品作りに挑戦。また来期は地域密着ブランディングの更なるパワーアップを目指します。



努力賞 岡山工場

トンボらしさ岡山工場らしさの追求

岡山工場では不用品となる糸管、包装紙などを近隣の子ども会、介護施設などに提供しています。工場から排出するプラスチック、紙類が再利用される事で、少しでも廃棄物の削減につなげる取り組みです。また工場内では従業員の年齢も若く、人手不足、技術継承が課題となっているため、技術勉強会を行い、技能を習得して小ロット、短納期にも対応できる組織作りを進めています。今後も引き続き岡山工場らしくブランディング活動に取り組んでいきます。



努力賞 システム部

IT革命

システム部では、業務効率アップを目指し「Word・Excel勉強会」の実施に取り組んでいます。前期は岡山本社・生産物流本部を中心に実施し、33名もの多くの方々に参加頂きました。参加者からは「勉強になった」「普段の業務に役立てていきたい」等の感想が寄せられており、活動が社内に定着してきたと感じています。今後も、内容をレベルアップしながら開催部署も拡大し、更なるブランディング活動を心掛けていきます。



1876年 (明治 9年)	●創業者三宅熊五郎により創業
1908年 (明治 41年)	●初代社長三宅保正が事業を継承
1910年 (明治 43年)	●「キラクたび」を主要商標として登録
1924年 (大正 13年)	●法人設立、帝国足袋株式会社と称す
1930年 (昭和 5年)	●学生服の生産・発売を開始。現在のトンボ学生服の第一歩である。
1944年 (昭和 19年)	●帝国興業株式会社に社名変更
1945年 (昭和 20年)	●学生服・足袋再生産開始
1947年 (昭和 22年)	●紡績部門を設ける
1955年 (昭和 30年)	●学生服・作業服・トレーニングパンツJIS規格表示許可工場となる ●合繊製品生産開始
1965年 (昭和 40年)	●丸洗い(ハイウエイ)学生服誕生
1971年 (昭和 46年)	●スポーツウエア専門福原工場(現・美咲工場)建設
1974年 (昭和 49年)	●岡山工場 新築移転 ●テイコク株式会社に社名変更 ●本社事務所岡山に移転
1976年 (昭和 51年)	●創業100周年 ●S.I.(スクールアイデンティティ)提唱
1978年 (昭和 53年)	●オンラインシステム導入
1979年 (昭和 54年)	●本社事務所 岡山駅前に移転
1982年 (昭和 57年)	●玉野流通センター完成
1983年 (昭和 58年)	●業界初のウール50%ウォッシュアップル学生服誕生
1984年 (昭和 59年)	●玉野本社工場コンピュータ・グレーディング・マーキングシステム導入
1986年 (昭和 61年)	●創業110周年記念事業として「WE LOVE トンボ」絵画コンクールを始める
1989年 (平成元年)	●デザイナー山本寛斎氏と提携、「KANSAI SCHOOL FORM」販売開始
1990年 (平成 2年)	●デザイナー桂由美氏と提携し、オフィスユニフォーム販売開始
1993年 (平成 5年)	●玉野本社工場内にカッティングセンター設立と自動裁断システムの導入
1994年 (平成 6年)	●デザイナー中野裕道氏と提携し「ヒロミチナカノスクール」販売開始
1996年 (平成 8年)	●創業120周年記念事業としてユニフォーム研究開発センター設立
1997年 (平成 9年)	●介護リハビリウエア「KIRAKU」販売開始
1999年 (平成 11年)	●ISO9002品質マネジメントシステム(QMS)認証取得
2001年 (平成 13年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得 ●「コムサ・デ・モード・スクールレーベル」販売開始
2002年 (平成 14年)	●環境報告書発行開始 ●ISO9001品質マネジメントシステム(QMS)認証取得 ●本社事務所 岡山市厚生町に移転
2003年 (平成 15年)	●「オリーブ・デ・オリーブ・スクール」発売開始
2006年 (平成 18年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得(全13事業所) ●創業130周年 株式会社トンボに社名変更
2007年 (平成 19年)	●トンボCSRレポート発行開始
2008年 (平成 20年)	●「YONEX」と業務提携 ●玉野本社工場・物流センター完成
2009年 (平成 21年)	●メディカルウエア(白衣)販売開始
2010年 (平成 22年)	●11月29日 いい服の日 制定
2011年 (平成 23年)	●創業135周年 真庭市とバイオマス推進協定締結
2012年 (平成 24年)	●美咲工場の年間排出CO2をカーボンオフセット ●美咲工場カッティングセンター増築
2013年 (平成 25年)	●株式会社トンボ倉吉工場設立
2014年 (平成 26年)	●シニア犬介護用品ブランド「With」立ち上げ ●トンボ大阪ビル完成
2015年 (平成 27年)	●英国大使館にて「トンボ140thアニバーサリータータン」を発表 ●介護ブランド「葉原はるみ」発売開始 ●「EAST BOY」発売開始
2016年 (平成 28年)	●創業140周年 VICTORYスポーツフォーラム開催
2017年 (平成 29年)	●株式会社トンボ倉吉工場スポーツ館完成 ●販売子会社の株式会社トンボメイトを吸収合併し名古屋支店に改組
2018年 (平成 30年)	●「YONEX」をヘルスケア事業で展開

◆トンボ商標

アサヒトンボ商標は、当初、キラクに続く足袋商標の代名詞でした。1930年(昭和5年)、学生服製造を始めるに当たり、市場に早く浸透するため、その知名度を生かしアサヒトンボ商標が用いられましたが、学生服事業が拡大するにしたがって、呼びやすさや親しみやすさからトンボが一本立ちし、「トンボ学生服」となり、今日に至っています。トンボ商標は、創業80年史(1956年刊)には、「日本は世界一蜻蛉(とんぼ)の多い国であります。日本の国を秋津洲(アキツシマ)ともいい、この「秋津」とはトンボのことです。即ちトンボは日本を表徴し、しかも子どもに親しまれる益虫であります。更に「アサヒ」は将に太陽の天に昇るところ即ち日出づる国として、日本の表徴であります。このアサヒにトンボを組み合わせた図柄は、我国の発展を祈る真心より弊社の商標といたしたものであります。」の記述があります。



◆足袋から学生服へ

昭和初期、洋装の普及と相まって足袋も靴下に代わられつつありました。規模を縮小し再スタートを切った帝国足袋は学生服に着目し、1930年(昭和5年)に「アサヒトンボ学生服」の商標で小学生用の制服の製造販売に踏み切りました。



トンボ CSR レポートに関するお問い合わせ先

株式会社トンボ 環境・CSR 推進本部

〒700-0985 岡山市北区厚生町二丁目2番9号 E-mail kankyo@tombow.gr.jp
TEL.(086)232-0368 FAX.(086)225-6680

※当レポートに掲載されている内容・写真の無断転載はお断りします。

CSRレポートとは

企業が、環境や社会問題などに対して倫理的な責任を果たすべきであるとするCSR(企業の社会的責任)の考え方に基いて行う、社会的な取り組みをまとめた報告書です。持続可能性報告書とも呼ばれ、企業の環境、労働、安全衛生、社会貢献などに関する情報や、事業活動に伴う環境負荷などを幅広く公開します。近年、さまざまなステークホルダーに対する説明責任を果たすコミュニケーション手段の一つとして環境報告書からCSR報告書へ移行する企業が増加傾向にあります。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



株式会社トンボは SDGs 実現に向けた取り組みを実施しています。



この製品は、適切に管理されたFSC® 認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。インキは環境負荷の少ない植物油インキを使用しています。

人と自然を大切にしたい価値ある製品づくりを

株式会社 **トンボ**

トンボCSRレポート

検索

